

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松ホトニクス株式会社新員工場2	階数	地上4F、塔屋1F
建設地	静岡県浜松市	構造	S造
用途地域	指定なし、法22条地域	平均居住人員	363 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2019年5月10日
敷地面積	12,090 m ²	作成者	(株)山下設計 蜂須賀 健太
建築面積	4,473 m ²	確認日	2019年5月14日
延床面積	15,631 m ²	確認者	(株)山下設計 小林 史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	56%
③上記+②以外の	56%
④上記+	56%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.5**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 4.0**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 次の優先順位のもと、費用対効果の高い浜松ホトニクス本社工場2棟建設をめざす。 1 将来の発展(3期工事)までを踏まえた効率的な生産拠点		その他 0
Q1 室内環境 ・空気調和機を使い除湿、加湿を適切に行い室内環境を維持	Q2 サービス性能 ・最先端の製造拠点としてふさわしい、工場としての機能面、安全面に配慮した内装計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・排熱を出す室外機は屋上に設置
LR1 エネルギー ・高効率空調機器の採用 ・エネルギー消費を適切に計量、監視する設備を設置	LR2 資源・マテリアル ・節水型衛生器具の採用 ・オゾン層破壊係数=0の冷媒を採用 ・雨水利用システムの導入	LR3 敷地外環境 ・電気エネルギー源の機器、空調機器を採用

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	浜松ホトニクス株式会社新員工場2棟	BEE	2.6	BEEランク
			A	★★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0 / 5		よい	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.4 / 5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4 / 5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.4 / 5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	4.0		
■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外断熱工法の採用 ②トップライトの設置 ③ブラインドの設置 ④大規模補修不要予定期間約65年、供用限界期間約100年にて計画 ガルバリウム鋼板ダクトを使用	Q-1 2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
	Q-1 3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備
		3.2	3.2.1	③	屋光制御
	Q-2 2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
		2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
		2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
		2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
		2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
		2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1			⑤	生物環境の保全と創出
⑤敷地外周部の積極的な緑化		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上
⑥主たる建築設備に伴う排熱は、建築物の高い位置から放出					
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
⑦外断熱工法の採用、開口部の合理化	2			⑧	自然エネルギー利用
⑧トップライトの設置	3			⑨	設備システムの高効率化
⑨高効率な設備システムの採用	4	4.1		⑩	モニタリング
		4.2		⑩	運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)	LR-2 1	1.1		⑪	節水
⑪節水型器具の採用		1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
⑫基礎築に再生材を使用			1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
⑬ビニル系床材、断熱材、吸音材の使用	2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減
ISSの採用			2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用
			2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
			2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
			2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
			2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
	3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
		3.2	3.2.1	⑬	消火剤
			3.2.2	⑬	断熱材
			3.2.3	⑬	冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1			⑭	地球温暖化への配慮
	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.4		
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰節水型器具の採用、井水の利用、受水槽に緊急用水栓を設置 通信手段の多様化、浸水の防止措置、有線電話の設置	Q-2 2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
				2.1.2	⑯
		2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
			2.4.3	⑰	電気設備
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
			2.4.5	⑰	通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.4		
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高は0.1mにて計画、壁長さ比率=0.17	Q-2 1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
	3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
			3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3	3.1		㉒	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	3.4		
■室外環境(敷地内)対策 (㉓生物環境の保全と創出/㉔まちなみ・景観への配慮/㉕敷地内温熱環境の向上) ㉖可能な限り外壁位置をセットバックし、外周部には植栽を計画	Q-3 1			㉓	生物環境の保全と創出
	2			㉔	まちなみ景観への配慮
	3	3.2		㉕	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (㉖温熱環境悪化の改善)	LR-3 2	2.2		㉖	温熱環境悪化の改善